

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和3年8月、2020年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表された。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00004.html)

神戸市の2020年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口10万人に対する新登録結核患者数)

2020年の結核罹患率は全国では10.1、神戸市では13.9、政令指定都市の中(東京都特別区を含む)で、高い方から4番目である。市内で最も罹患率が高いのは兵庫区の22.0で、次いで長田区21.1、中央区15.6であった。一方、罹患率が低いのは灘区8.0、須磨区12.0、北区12.3と13未満である。人口の少ない区では変動が大きいが、旧市街地である3区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表1、図1)

神戸市全体では神戸市結核予防計画2020の目標である結核罹患率17.0未満にすることができた。コロナ禍の影響(健診や医療機関への受診控え等)で低下している可能性は否定できず、患者の発見に努めたい。

2. 新登録結核患者数(1年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)
新登録結核患者数は全国では12,739人で前年より、1,721人(11.9%)減少している。神戸市では213人で、前年より、49人(約18.7%)減少した。2019年に1.5%増加したので、1年ごとでは多少の増減がありながらも、患者数は減少していく過程と考えている。(表2、図1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰塗抹検査で陽性:喀痰をガラス板に塗って顕微鏡でみる検査で菌が見つかった患者数、及びその人口10万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では4,615人、罹患率3.7で、神戸市では81人、罹患率は5.3である。神戸市結核予防計画2020の目標である喀痰塗抹陽性罹患率7.0未満とすることは維持でき、これをさらなる減少に転じていきたい。(図2)

4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤であるINH,RFPの2剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で6,645人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは5,209人、MDRは46人(0.7%)であった。神戸市では培養陽性患者124人、全件感受性判明しており、MDRは0人であった。菌情報の把

握に努め、患者を支援している成果と考える。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70歳以上は全国では7,972人で62.6%、神戸市では132人で62.0%をしめる。80歳以上は全国では前年より603人減少して5,425人(42.6%)、神戸市では36人減少して85人(39.9%)であった。合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられるが、高齢者は結核の一般的な症状を示さないことがあるため注意が必要である。

6. 小児結核(0~14歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国で52人、前年から14人(36.8%)の増加となっている。重症結核例は、粟粒結核と結核性髄膜炎を併発した0歳の患者が1人であった。神戸市では2017年に小児結核は3人発生していたが2018年・2019年の小児結核は0人であった。2020年は2人で、1年に1人くらいは発生していることになる。幸い小児の重症例は2003年以降発生していない。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から130人減少し、1,411人となった。神戸市では22人と6人減少したが、昨年に続き全新登録結核患者の10%を超えている。20代においては新登録結核患者8人中8人(100%)が外国生まれであった。全国でも20代の新登録結核患者に占める外国生まれ患者の割合は71.3%となっており、依然として高い割合となっている。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として来日し、発病している人が多い。国の入国前結核スクリーニングが軌道にのれば、今後は入国2ヵ月以内の発病者は減ると予想される。しかし、結核は潜伏期が長いため、その後も年1回の健診の受診勧奨とそこで発見される人を速やかに治療につなぎ、症状が出て人に感染させる可能性が高くなってからの受診で発見される人の減少を図ることが大切である。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態:LTBI)

全国では2020年5,575人で、前年より2,109人減少、神戸市では68人で、前年より15人減少している。接触者健診で発見し治療する人より、合併症の治療に際し、潜在性結核感染症の治療が必要となる人が増加し、60歳以上が過半数を占めている。(図4)

2020年LTBI治療終了後に発病した例は認めない。服薬完遂が重要である。

表1 罹患率(人口10万人あたり)

年	2018	2019	2020
神戸市	16.9	17.2	13.9
東灘	7.0	13.5	12.6
灘	13.1	20.5	8.0
中央	25.6	20.4	15.6
兵庫	35.5	26.1	22.0
北	15.0	14.1	12.3
長田	24.0	33.6	21.1
須磨	15.7	10.7	12.0
垂水	15.2	14.3	13.5
西	15.7	15.8	14.2

令和2年国勢調査の人口集計値で計算

表2 新登録患者数(人)

年	2018	2019	2020
神戸市	258	262	213
東灘	15	29	27
灘	18	28	11
中央	36	29	23
兵庫	38	28	24
北	32	30	26
長田	23	32	20
須磨	25	17	19
垂水	33	31	29
西	38	38	34

